

科目名	ミクロ経済学基礎		
授業形態	講義	学年	2
開講時期	2023 年度 前期	単位数	2
担当教員	木谷 耕平		
内容および計画	ミクロ経済学では、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらが市場でどのように相互に関わりあうのかを研究する。ミクロ経済学は現代経済学の基礎となる分野であり、経済の仕組みを理解する上で、また、経済学をさらに学ぶ上でその知識は欠かせない。ミクロ経済学を学ぶことで、世の中の様々な事象を分析できるようになる。例えば、なぜ交易することが望ましいのか、モノの価格や取引量がどう決まるのか、なぜ政府が必要なのか、といったことをこの授業では考察する。 経済学の理解を深めるためには、問題演習を通じて自分で考えることが重要である。授業ではテーマごとに問題演習を行う。なお、経済学を学ぶためにはある程度の数学的知識が必要となるが、この授業で必要な数学的知識は適宜解説する。履修において、四則演算より高度な数学の知識は必要ない。 授業を通して、ミクロ経済学の基本となる考え方を理解し、それを現実社会の出来事に応用できるようになることを目指す。 キーワード：市場、価格、交易、消費者、企業、政府		
1	イントロダクション：ミクロ経済学とは 現代経済学の全体像について解説し、ミクロ経済学とマクロ経済学の違いなどを学ぶ。		
2	相互依存と交易の利益 私たちが普段食べたり使ったりしているものの多くは、自分自身が作ったものではない。他人が作ったものをスーパーなどで購入したものである。私たちは、他人との取引を通じて豊かな生活を実現している。この回では、なぜ交易をすることで皆が豊かになれるのかを学ぶ。		
3	市場の働き（１）市場における需要と供給の作用 売り手と買い手が集まる場所を市場（しじょう）というが、私たちは市場を通じてモノやサービスを取引している。この回では、市場を需要と供給の図によって表すことを学ぶ。また、その図を使って、市場においてどのように需要と供給が一致するのかを学ぶ。		
4	市場の働き（２）弾力性とその応用 ある商品の値段が変わるとき、所得など他の条件が変わらなければ、私たちはその商品の消費量を変えるはずである。では、価格の変化に対して消費量はどのくらい変化するのだろうか。この回では、価格や所得などの条件が変化したときに消費量がどのくらい変化するのかを測るために、「弾力性」という考え方を学ぶ。		
5	市場の働き（３）需要、供給、および政府の政策 家賃規制や最低賃金のような政府による価格の規制は、市場の取引量や価格にどのような影響を及ぼすのだろうか。また、政府が商品の価格に税を上乗せしたとき、その税は消費者と生産者によってどのように負担されるのだろうか。この回では、需要と供給の図を用いて、価格規制や税金による市場への影響を分析する。		
6	市場と厚生（１）消費者余剰、生産者余剰、効率性 消費者や生産者が市場の取引に参加するのは、自分たちに便益があるからである。この回では、消費者や生産者が市場に参加することで、どのような便益を得られるのかについて学ぶ。また、市場の結果が、社会にとって望ましいものであるのかを考察する。		
7	市場と厚生（２）課税の費用 課税が市場の価格や取引量にどのような影響を与えるのかはすでに学んだ。ここでは、その分析を拡張し、課税が市場の参加者の経済的な厚生に与える影響について考察する。		
8	公共部門の経済学（１）外部性 ある人や企業の行動が、意図せずに他人に影響を与えるような場合がある。例えば工事に伴う騒音や自動車通勤による排気ガスの発生などがそれにあたる。この回では、ある行動が意図せずに周囲に影響を及ぼすとき、市場の結果がどうなるのかを考察する。		
9	公共部門の経済学（２）公共財と共有資源 現代の経済ではほとんどのモノやサービスが市場で供給されているが、一部のものは政府によって供給されている。例えば、国防や公園、道路などである。この回では、なぜある種のモノやサービスは政府によって供給されているのかを学ぶ。		
10	企業行動と産業組織（１）生産の費用 企業は生産量をどのように決めるのだろうか。企業が利潤（売上－費用）を最大化するように行動するならば、生産の費用を理解することが、企業の生産量の決定を考える上で必要となる。ここでは、生産にはど		

	のような費用がかかるのかを学ぶ。																														
11	企業行動と産業組織（2）長期と短期の費用 企業が生産量を増やすために工場を新設したいと考えても、資金調達や用地の確保には時間がかかり、短期で実現することは難しい。しかし、時間が経てば工場を増やすことは可能であろう。したがって、工場にかかる費用は短期では固定だが、長期では変わり得る。この回では、生産の費用が時間の長さによってどう異なるのかを学ぶ。																														
12	企業行動と産業組織（3）競争市場における企業 街にはガソリンスタンドが多数あり、それぞれほぼ同じガソリンを売っている。このように競争相手が多数いて、同じようなモノやサービスを販売している場合、市場の価格や取引量はどのようになるのだろうか。この回では、競争市場の特徴について学ぶ。																														
13	企業行動と産業組織（4）生産の決定 前回に引き続き、競争市場について考察する。この回では、競争市場において、企業がどう生産量を決め、それが短期と長期でどう異なるのかを学ぶ。また、競争市場で決まる結果が社会的に望ましいものであるのかを検討する。																														
14	企業行動と産業組織（5）競争市場の供給曲線 この授業の前半部分で学んだ需要と供給のうち、供給曲線は競争市場における企業行動から導くことができる。この回では、市場の供給曲線が、競争企業の分析からどのように導かれるのかを学ぶ。																														
15	企業行動と産業組織（6）市場価格の調整メカニズム 市場では、価格が変化することで需要と供給が一致する（均衡に至る）。例えば、売れ残りが発生すれば価格が下がり、企業は生産量を減らし、消費者は消費量を増やす。その結果、売れ残りは解消される。この回では、このように売れ残りや不足が解消されるまでのプロセスについて、より詳しく学ぶ。																														
教科書																															
	<table><tr><th>タイトル</th><th>著者名</th><th>出版社</th><th>ISBN</th><th>発行年</th></tr><tr><td>『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』</td><td>N・グレゴリー・マンキュー</td><td>東洋経済新報社</td><td>9784492315194</td><td>2019</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年	『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315194	2019																				
タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年																											
『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編（第4版）』	N・グレゴリー・マンキュー	東洋経済新報社	9784492315194	2019																											
参考書	井堀利宏 『入門ミクロ経済学 第3版』 新世社																														
成績評価																															
	<table><tr><th>評価方法</th><th>割合(%)</th></tr><tr><td>期末試験</td><td>70</td></tr><tr><td>小テスト</td><td>30</td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	評価方法	割合(%)	期末試験	70	小テスト	30																								
評価方法	割合(%)																														
期末試験	70																														
小テスト	30																														
・小テストは数回実施する。詳細は最初の授業で説明する。 ・期末試験及び小テストは持ち込み不可。																															
学習到達目標	以下の3点をこの授業の到達目標とする。 ①ミクロ経済学の用語や考え方を理解し、説明できる。 ②ミクロ経済学の考え方を応用して、現実社会の問題を分析できる。 ③新聞記事やニュースの内容を理解し、批評することができる。																														
先修条件																															
実務経験																															
その他	私語など、授業と関係のない行為は慎むこと。																														

